

# 中学生を持つ保護者の性知識と性教育に対する意識

## Knowledge on sexual among parents of junior high school students and their understanding of sexuality education

丹羽さゆり<sup>1</sup> 水谷 聖子<sup>2</sup> 大橋 裕子<sup>3</sup> 水谷 勇<sup>4</sup>

Sayuri NIWA<sup>1</sup> Seiko MIZUTANI<sup>2</sup> Yuko OHASHI<sup>3</sup> Isamu MIZUTANI<sup>4</sup>

### 要 旨

著者らは愛知県A市内にある公立B中学校で、保護者を対象とした性に関する健康教育を行う機会を得た。そこで、中学生を持つ保護者の性知識と性教育に対する実態を把握し、今後の効果的な性教育のあり方を検討する基礎資料を得ることを目的として質問紙による調査を実施した。調査から子どもと性について話し合う保護者は少なく、子どもの性に関して漠然とした不安を抱いていることがわかった。また、保護者自身が性感染症やエイズなどに関する知識が不十分で、性教育は学校で行ってほしいと考えていることが分かった。保護者が子どもの性行動や性意識の動向を知り、正しい知識をもって積極的に子どもと性について語ることができる支援策が必要である。

**キーワード：**性知識，中学生，保護者，性教育

### はじめに

性行動の低年齢化，10代の望まない妊娠や性行為感染症の増加は大きな社会問題の一つである<sup>1)2)</sup>。思春期・青年期にある生徒や学生を対象にするだけでなく，学校や家庭をはじめ地域社会全体で性教育に取り組む必要性がある。筆者らが行った性教育に関する文献検討によると，性教育の実践は，文部科学省のエイズ教育（性教育）推進事業が平成5年から開始されたことによって，この事業の報告とそれ以外の学校，医療機関，保健行政機関やその他の団体によるさまざまな実践が報告されていることがわかった<sup>3)</sup>。性教育に関する調査研究では，研究対象は学生や生徒が多く，研究内容の多くは，性の知識や行動に関するものであった。次いで教員や保護者から見た子どもたちの性の現状に対する意識や性教育の現状であっ

た。専門職の介入や関係機関の連携の必要性を示唆した論文は増加傾向にあるが，具体的な性教育の手段や方法などについて体系化したものはなかった<sup>4)</sup>。いずれにしても，現状において系統的に性教育が行われ浸透しているとは言いがたいことがわかった。筆者らは，性教育を生涯教育の一環として多機関・多職種との連携や多様な機会に行われることが不可欠と考えている。さらに，人格を育むという視点を持って行われることが「生と性」に対する理解を深め性の自己決定能力を高め，より豊かな人間関係の形成に繋がると考え，性教育の内容と方法を検討している。今回は，愛知県内の中学校で保護者を対象とした性に関する健康教育を行う機会を得た。そこで，今後の効果的な性教育のあり方を検討する基礎資料を得ることを目的として，中学生を持つ保護者自身の性知識，子どもたちの性意識や性行動に対する実態を把握す

1 中部大学生命健康科学研究所 - Research Institute of Life and Health Sciences, Chubu University

2 日本赤十字豊田看護大学 - Japanese Red Cross Toyota College of Nursing

3 名古屋郵政健康管理センター - Nagoya Japan Post Health Care Center

4 神戸学院大学人文学部 - Kobe Gakuin University

るため質問紙による調査を実施した。

## 対象および方法

対象は、愛知県内A市内にある公立B中学校で開催された「家庭教育セミナー」に参加した保護者121名であった。質問紙は講座開始前に調査の趣旨、無記名自記式であることを説明し配布した。質問紙の回収は、講座終了後に会場内に回収用袋を用意し、自由意志で投入できるようにした。質問内容は、①子どもの性に関する行動や発言に対する認識、②家庭における性教育の実際、③性教育に関する希望、④性感染症・エイズに関する知識などとした。性感染症・エイズに関する知識を問う質問内容は、木原が作成したものとした<sup>5)</sup>。調査用紙記入あたって④エイズや性病に関する知識に関する質問の部分は筆者らが質問文を読み上げた。回答者の属性などその他の質問に関しては講座開始前に回答時間を設定した。

「家庭教育セミナー」は、学校参観の日程の一部として開催されている地域向けの講演会である。公立B中学校では、地域に開かれた学校をめざして毎年6月と10月に保護者学校参観日を設け、学校の普段の様子を知らせるとともに、子どもの健全な成長支援のためにさまざまなテーマを設定し開催している。この行事の案内は、保護者の他に、地域の区長や民生委員にも送付されている。平成15年度前期は「家庭で心がける感染症の予防」と題して行われた。講座は単発で6回行われ、講師はA市感染症予防課と筆者らが協働し分担して対応することになった。筆者らは6回の家庭教育セミナーのうち4回を担当し、テーマを「家庭で心がける感染症の予防 一青少年を取り巻く性の現状から一」とした。内容は青少年の性行動、性的被害、性感染症、性情報の氾濫、性教育の現状や親としてでききることとした。

## 結 果

### 1. 対象者の属性

著者らが行った4回の家庭教育セミナーへの参加者は合計121人で、質問紙の回収は参加者全員であった。回答者は全員女性（母親）であった。年齢構成は、30歳代37人、40歳代67人、50歳代5人、無回答12人で平均年齢は41.28±3.96歳であっ

た。

職業は、会社員・公務員54人、専業主婦48人、自営業8人、パート8人、その他3人であった。

子どもの数別では、1人が8人、2人が54人、3人が48人、4人が8人、5人が5人、無回答1人で平均子ども数は2.52人であった。現在の地域での居住年数は、10年未満が24人、10年以上20年未満が64人、20年以上30年未満が18人、30年以上40年未満が6人、40年以上が5人、無回答が4人であった。居住形態は一戸建て住宅が109人、集合住宅が11人、無回答1人であった。

### 2. 子どもの生や性に関する事項

#### 1) 子どもと性について話し合う程度

「子どもと性について話し合うことがあるか」という問いに対して、「よく話し合う」と答えた者は3人、「話しあう」は23人で合計26人(21.5%)であった。「あまり話し合わない」と答えた者は41人、「ほとんど話さない」は38人、「まったく話さない」は13人、「無回答」は3人であった。

#### 2) 子どもと話し合う内容(図1)

子どもと性について「よく話し合う」「話し合う」と答えた26人に対して、「どのようなことを話し合うか」という問いに対して複数回答で求めた。「恋愛・性交」15人、「妊娠・出産」12人、「携帯電話のサイト」18人、「避妊・中絶」9人、「エイズ・人権」9人、「性感染症」7人、「パソコンを利用したインターネット」7名、「同性愛や性同一障害」3人、「その他」3人であった。6項目につけていた者が2人あり一人当たり平均回答項目数は3.2個であった。

#### 3) 子どもの性に関する行動や言動で気になること

「子どもの性に関する行動や発言で気になることがあるか」という問いに対して、「はい」と答えた者は15名(12.4%)、「いいえ」と答えた者は106人(87.6%)であった。「はい」と答えた者の具体的内容は、雑誌や漫画に関すること、友人の性に関する発言や行動、異性との交際に分けることができた(表1)。

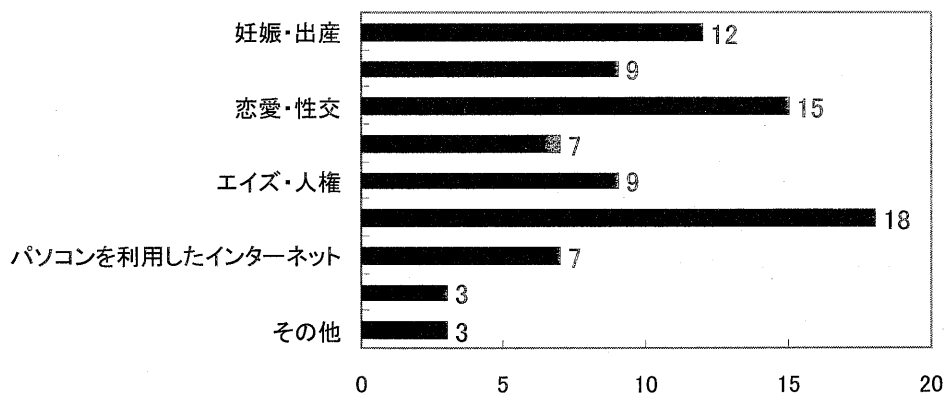


図1 子どもと性について話し合う内容

表1 子どもの性に関する行動や発言で気になること

|                                      | (人) |
|--------------------------------------|-----|
| <b>&lt;雑誌・漫画に関すること&gt;</b>           |     |
| ・性雑誌などを見ている                          | 3   |
| ・小学生が読む少女漫画に生理とかどうしたら赤ちゃんができるか書いてあった |     |
| ・漫画で過激なものがあり、どこまで知っていて何を考えているのか不安    | 1   |
| ・中高校生を対象とした漫画など袋とじですごい写真がついている       | 1   |
| <b>&lt;友人の性に関する発言・行動&gt;</b>         |     |
| ・友だち同士でどこまでの会話をしているのだろうか             | 1   |
| ・友達の「やりたい」とか、「あいつはエロい」などという言葉が増えた    | 1   |
| ・親の携帯電話をつかっているが、友達から女の人の裸の写真が送られてくる  | 1   |
| <b>&lt;異性との交際&gt;</b>                |     |
| ・付き合っている子がいる                         | 1   |
| ・好きな人だったら SEX してもいいと言う               | 2   |
| ・夜遅く帰ることがある                          | 1   |

#### 4) 今後、子どもへの生や性の教育として希望する内容(図2)

子どもたちへの生や性の教育として希望する内容を複数回答で求めた。「性感染症」78人、「恋愛・性交」74人、「避妊・中絶」70人、「HIV」51人、「携帯電話のサイト」46人、「妊娠・出産」36人、「パソコンを利用したインターネット」35人、「同性愛や性同一障害」13人、「その他」6人であった。その他の具体的内容には、どの項目も必要だと思う(3人)、系統立った指導計画で学年に応じた内容を継続的指導してほしい(2人)、子どもが安心して病院にいける、漫画についての指導などがあった。

#### 5) 生や性教育に関する意見

自由記述で生や性教育に関する意見を求めた結果、19件の記述があった。①子どもへの性教育を学校で実施を希望する意見が8件、②子どもを取り巻く社会現象と関連した性に関する認識や行動6件、③家庭における子どもへの性教育について5件であった。

①子どもへの性教育を学校で実施を希望する意見をみると、その内の2件は「家庭で話さないといけないが、なかなかできない」「家庭でも必要と思うがどう進めていいかわからない」という意見であった。

②子どもを取り巻く社会現象と関連した性に関する認識や行動では、携帯電話やインターネットの出会い系サイトに簡単にアクセスできる意見が

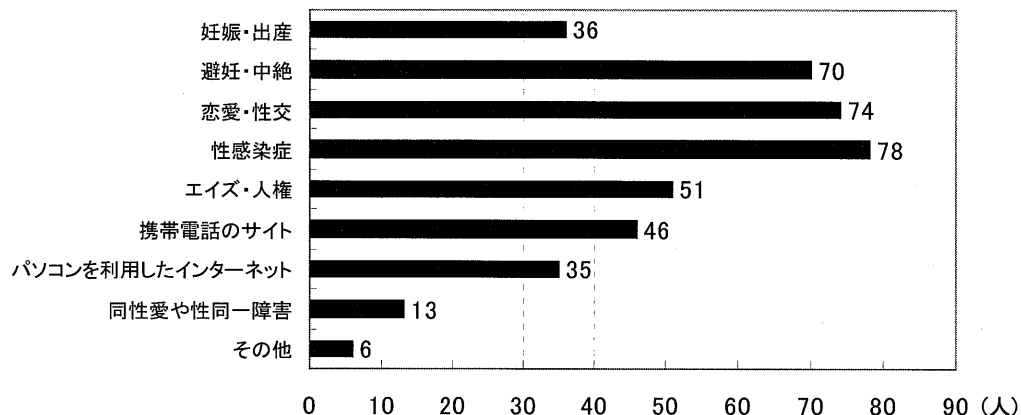


図2 今後子どもたちへの生&性の教育として希望する内容（複数回答）

2件、恋心を抱かずにつき合うことや恋愛に関するモラルが低い2件、テレビ番組などからの助長、情報を見極め判断する力が必要であるが各々1件であった。

③家庭における子どもへの性教育については、「なかなか切り出すきっかけがない」が2件、「心配だが、見守っているの」が2件、「女の子とは話せても、母親と男の子とは話にくい」が1件であった。

### 3. 保護者の性に関する知識（表2）

性感染症やエイズに関する質問について、「正しい」「正しくない」「わからない」で回答を求め、正解者の状況をみた。

#### 1) 日本における性感染症・エイズの現状

「最近、日本の若者の間でエイズウイルス感染者が増えている」の正解者は88人（72.7%）、「最近、日本の若者の間で性病感染者が増えている」の正解者は108人（89.3%）で正解者の割合が高かった。

#### 2) 性行為感染症やエイズの感染経路

「エイズウイルス感染者が使用した食器を使うと、エイズウイルスに感染する可能性がある」の正解者は102人（84.3%）、「エイズウイルス感染者が使用したお風呂に入ると、エイズウイルスに感染する可能性がある」は正解者91人（75.2%）、「エイズウイルス感染者が使用したトイレを使うと、エイズウイルスに感染する可能性がある」の正解者は104人（86.0%）というようにエイズの感染経路に関しての正解者は多かった。しかし、「口を使ったセックスで、口からペニスに性病が

うつることがある」の正解者は60人（49.6%）、「口を使ったセックスで、ペニスから口に性病がうつることがある」の正解者74人（61.2%）とエイズの感染に関する知識と比較して正解者の割合が低かった。

#### 3) 性感染症・エイズの病態や治療法

「性病にかかっているとエイズにかかりやすい」の正解者は28人（23.1%）、「性病にかかると必ず症状が出る」の正解者83人（68.6%）、「性病を治療しないと、赤ちゃんができなくなることがある」の正解者82人（67.8%）、「性病にかかっていると、子宮ガンにかかりやすい」の正解者は31人（25.6%）、「新しい薬ができたので、エイズウイルスに感染してから発病するまでに期間を遅くすることができるようになった」は正解者47人（38.8%）で、わからないと回答している割合が高かった。

#### 4) エイズ検査の方法

「普通のエイズ検査では、感染してから数日後に感染しているかどうか分かる」の正解者33人（27.3%）、「エイズ検査が陽性の場合、感染者の名前や住所が国に報告される」の正解者44人（36.4%）、「保健所（保健センター）では、名前を言わずにエイズ検査ができる」の正解者60人（49.6%）、「保健所（保健センター）では、無料でエイズ検査ができる」の正解者51人（42.1%）、「保健所（保健センター）では、名前を言わずに無料でエイズ検査ができる」の正解者36人（29.8%）であった。先の性感染症・エイズの病態は治療法同様、正解者の割合はどの項目も半数以下で「わからない」に回答している割合が高かった。

表2 保護者のエイズ・性病に関する知識

| No. 質問項目                                               | 人 (%)     |           |          |
|--------------------------------------------------------|-----------|-----------|----------|
|                                                        | 正しい       | 正しくない     | わからない    |
| 1 最近、日本の若者の間でエイズウイルス感染者が増えている                          | 88(72.7)  | 5(4.2)    | 28(23.1) |
| 2 最近、日本の若者の間で性病患者が増えている                                | 108(89.3) | 2(1.6)    | 11(9.1)  |
| 3 エイズウイルス感染者が使用した食器を使うと、エイズウイルスに感染する可能性がある             | 6(5.0)    | 102(84.3) | 13(10.7) |
| 4 エイズウイルス感染者が使用したお風呂に入ると、エイズウイルスに感染する可能性がある            | 9(7.5)    | 91(45.8)  | 20(16.7) |
| 5 エイズウイルス感染者が使用したトイレを使うと、エイズウイルスに感染する可能性がある            | 7(5.8)    | 104(85.9) | 10(8.3)  |
| 6 性病にかかっているとエイズにかかりやすい                                 | 28(23.9)  | 53(45.3)  | 36(30.8) |
| 7 口を使ったセックスで、口からペニスに性病がうつることがある                        | 60(50)    | 24(20)    | 36(30)   |
| 8 口を使ったセックスで、ペニスから口に性病がうつることがある                        | 74(62.7)  | 11(9.3)   | 33(28)   |
| 9 性病にかかると必ず症状が出る                                       | 22(18.3)  | 83(69.2)  | 15(12.5) |
| 10 性病を治療しないと、赤ちゃんができなくなることがある                          | 82(70.1)  | 12(12.8)  | 20(17.1) |
| 11 性病にかかっていると子宮ガンにかかりやすい                               | 31(28.7)  | 30(25.9)  | 55(47.4) |
| 12 新しい薬ができたので、エイズウイルスに感染してから発病するまでの期間を遅くすることができるようになった | 47(40.9)  | 25(21.7)  | 43(37.4) |
| 13 普通のエイズ検査では、感染してから数日後に感染しているかどうか分かる                  | 47(39.5)  | 33(27.7)  | 39(32.8) |
| 14 エイズ検査が陽性の場合、感染者の名前や住所が国に報告される                       | 25(21.4)  | 44(37.8)  | 48(41.0) |
| 15 保健所(保健センター)では、名前を言わずにエイズ検査ができる                      | 60(52.2)  | 21(18.3)  | 34(29.8) |
| 16 保健所(保健センター)では、無料でエイズ検査ができる                          | 51(42.5)  | 22(18.3)  | 47(39.2) |
| 17 保健所(保健センター)では、名前を言わずに無料でエイズ検査ができる                   | 36(30.0)  | 31(25.8)  | 53(44.2) |
| 18 コンドームを使うことは、性病やエイズの予防に有効である                         | 116(95.9) | 3(2.5)    | 2(1.7)   |
| 19 ピルは避妊薬である                                           | 103(85.8) | 13(10.8)  | 4(3.3)   |
| 20 ピルはエイズの予防になる                                        | 4(3.3)    | 102(85.0) | 14(11.7) |
| 21 ピルは性病の予防になる                                         | 6(5.0)    | 104(86.0) | 11(9.1)  |

※太数字が正解である

#### 5) コンドームやピルの正しい使用法

「コンドームを使うことは、性病やエイズの予防に有効である」の正解者は116人(95.9%)、「ピルは避妊薬である」の正解者は103人(85.1%)、「ピルはエイズの予防になる」の正解者102人(84.3%)、「ピルは性病の予防になる」の正解者104人(86.0%)で正解者の割合が高かった。

#### 4. セミナーの内容について

##### 1) 内容に対する評価

筆者らが担当者4回のセミナーの内容に対して5段階で評価を求めた。「大変良かった」25人(21.0%)、「良かった」68人(57.1%)、「普通」24人(20.2%)、「あまり良くない」2人(1.7%)、無回答2人(2%)、「良くなかった」と回答したものはなかった。参加者の78.1%は、「大変良かった」「良かった」と評価していた。

##### 2) セミナー受講後の意見・感想など

セミナー受講後の意見・感想などを自由記述でもとめた。記述があったのは31人であった。記述内容は、性に関する学習や相談の場に対する希望が15件、性に関する情報・知識不足に対する自覚が14件、家庭(保護者)の役割について自覚が5件に分けることができた。

①性に関する学習や相談の場に対する希望では、もう少し時間をとって聞きたかった(3件)、年一回以上はこのようなセミナーを催してほしい(2件)、できれば子どもと一緒に聞きたかった、相談できる場がほしいなどであった。

②性に関する情報・知識不足に対する自覚は、さらに、a. エイズや性感染症、b. 中高校生の性に対する考え方や性の実態とそれに対する対処、c. インターネット・携帯電話のサイト情報に分類できた。

a. エイズや性感染症では、エイズや性感染症

を知らないことを自覚した（2件）、性感染症についてもっと詳しく聞きたい（2件）、性感染症に罹った時の対処方法について知りたい（2件）、具体的事例を聞きたいなどであった。

b. 中高校生の性に対する考え方や性の実態とそれに対する対処では、中学生の性の目覚め、実態や対処等について知りたい（4件）、中学生の性について学校での指導の仕方を知りたい（2件）、地域の子どもたちの性の実態を知りたい（2件）であった。

c. インターネット・携帯電話のサイト情報では、インターネットや携帯電話の問題点がわかった（3件）、具体的にどのような危険な情報があるのか知りたい（1件）であった。

③家庭（保護者）の役割の自覚では、家庭での性教育（性についての話し合い）の方法について知りたい（2件）、すべては家庭の教育が基本だと思った、いままで子ども話したことなかったが話してみようと思う、今日の内容を娘にしっかり伝えたいなどであった。

## 考 察

今回は、家庭教育セミナーに参加した中学生の子をもつ一部の保護者で、性別も女性に限られており、データとしての偏りは否めない。しかし、中学生を持つ保護者自身の性知識、子どもたちの性意識や性行動に対する実態と率直に述べられている自由記述があり、今後の効果的な性教育のあり方を検討する貴重な資料を得ることができた。ここでは、思春期にある子と親との間をとりまく性の状況、中学生の保護者である世代に対する性に関する知識の普及や啓発、子どもの性に対する保護者の戸惑いを支援する必要性について述べる。

### 1. 思春期にある子と親との間をとりまく性の状況

家庭における性教育の現状に関するこれまでの調査によると、女子に対しては月経指導などを母親がともに部分的・断片的に行っている程度で性教育のために積極的に活用されていない。男子に対しては射精・精通の指導などを行っている父親は少なく、射精についての指導に限らず全般的に男子に対する両親の性教育の取り組みは乏しい<sup>6)7)</sup>。性教育は前もって知識を身につけるため

に必要で、家庭でも行うべきであると考えている親は多い。しかし、現実には家庭で性教育を行ったことがない親が多く、家庭で行うべき性教育の内容や方法がわからず、子どもに対する性教育に戸惑いを感じている<sup>8)9)</sup>。今回の調査の結果においても、家庭において子どもたちと性について話す必要性を感じている、子どもたちと性について話すにはどう切り出していいかわからないといった戸惑いがあり、学校できちんと性教育をしてほしいといった思いは、これまでの調査結果と同様の傾向を見ることができた。さらに、子どもの性に関する行動や言動で気になることがあると答えたのは、わずか15人（12.4%）に過ぎなかったのは、性に関することを子どもとどう話していいかわからない態度や性感染症など知識があいまいであることから、保護者は気になりながらも子どもたちと性について話題にできにくい状況があるのではないと思われる。思春期にある子どもたちは、このような親の姿に呼応するかのごとく、性に関することについて親に相談することは少なく、相談をしてもはぐらかされてしまい、納得できる回答が得られなという思いを抱いている<sup>10)11)12)13)</sup>といった先行研究を指示する結果といえよう。一方で、思春期にある子どもたちは、友人、恋人や雑誌などから情報を得ている自分自身の性に関する知識のあいまいさに不安を覚え、親の的確な対応と学校における有用な性教育を希望している<sup>14)15)16)</sup>。今回、保護者に対して子どもたちの性に関する状況をたずねたが、友人の言動・行動、雑誌や漫画からの影響など不安を抱いている声があったことから、これまでの先行研究の知見を保護者からも支持する結果といえる。思春期にある子どもをもつ保護者にとって、未成年者が簡単にアクセスできるインターネットのアダルトサイト、携帯電話からの出会い系サイト、雑誌や漫画の影響など氾濫する性情報からどのように子どもたちを守るのかといった問題に直面している様子が伺える。このような現象は家庭や学校といった限られた空間ではなく、社会全体として性をとりまく問題を考えていくことの必要性を示唆しているといえよう。

### 2. 中学生の保護者である世代に対する性に関する知識の普及や啓発

今回、中学生の子どもをもつ保護者に対して性感染症やエイズの知識を直接たずねたところ、日

本における性感染症・エイズウイルス感染者の現状、エイズの感染経路、避妊などについては概ね理解していた。しかし、エイズ以外の性感染症の感染経路、性感染症・エイズの病態や治療法、エイズ検査の方法など曖昧であることがわかった。保護者自身、学校では第二次成長や妊娠の過程などの性教育や保健の授業は受けているものの性感染症や避妊などきちんと学ぶ機会が少なかったか、場合によってはほとんどなかったと推測される。性感染症や望まない妊娠などは思春期にある子どもたち以上に保護者の世代にとっても問題である<sup>17)18)</sup>。また、性感染症などの検査や治療方法、情報機器の発達に伴う性に関する情報の多様化、年齢によって変化する性に対する意識などを鑑み生涯を通して生と性の教育を受ける機会をつくる必要がある。

### 3. 子どもの性に対する保護者の戸惑いを支援する必要性

家庭内で子どもと性について話す機会をもっている保護者が少ないという結果の背景には、子どもの実態がわからない、子どもへの接し方がわからない、子どもがどのような反応をするのかわからず不安がある、正しい知識・正確な情報をもっていないといった保護者の実態がわかった。保護者は家庭での性教育の必要性を認識しており、それを実施するための知識や技術を習得したいというニーズをもっているが充足されていないことが自由記載やセミナーの内容に対する感想、意見、希望などから推測できる。子どもへの性教育を家庭でもきちんとしていきたい、そのために保護者自身が正しい知識を持つこと、子どもと性について話す方法などとして学校における性教育の現状を保護者に伝える子どもと話すきっかけづくりなど子どもの性に対する保護者の戸惑いを支援する必要がある。

以上のことから、学校での性教育を推進すると共に、性教育を保護者が子どもの性行動や性に関する考え方について関心をもち、正しい知識と技術をもって積極的に子どもと性について語れるようになるための支援策が必要と考えられる。

今回のセミナーの参加者は公立B中学校に通う中学生の母親であった。家庭内での性教育の充実を図るためには、母親以外に父親も参加できる、子どもと一緒に参加できる、というような時間帯

や場所、内容、実施方法の工夫、検討が必要と思われる。また、地域全体で思春期の子どもたちを育てる・子育て支援という観点から考えるならば、地域の民生委員や区長に留まらずセミナー開催の案内をさらに広く地域に呼びかけていくことも検討する必要がある。そのためには、学校、保健行政機関、大学など地域の関係機関の連携をより緊密にして、具体的に事業化していくことも重要と思われる。

## 謝 辞

今回の健康教育の機会をいただき、質問紙調査にご協力くださった、A市福祉保健部感染症予防課の皆様、およびB中学校の教職員、保護者の皆様に深謝いたします。

## 引用文献

- 1) 厚生労働省大臣官房統計情報部：平成14年度厚生労働省「感染症発生動向調査」財団法人厚生統計教会, 2003.
- 2) 厚生労働省大臣官房統計情報部：平成14年度母体保護統計報告書, 財団法人厚生統計協会, 2003.
- 3) 大橋裕子・丹羽さゆり・水谷聖子他：性教育の実践に関する文献検討, 中部大学生命健康科学研究所紀要, 1, 2005.
- 4) 水谷聖子・岡部千恵子・小塩泰代他：生涯学習の一環としての性教育のあり方に関する基礎的研究一過去5年間の文献レビューから一, 日本赤十字愛知短期大学紀要, 15号, pp95-102, 2004.
- 5) 木原正博ら：厚生科学研究費補助金エイズ対策研究事業, HIV感染症の動向と予防介入に関する社会疫学的研究, 平成13年度研究報告書, 2002.
- 6) 渡辺マリ子他：高校生に性教育を実施して一助産婦による思春期教育の必要性一, 岐阜県母性衛生学会雑誌, 23, 1998.
- 7) 河野美香：青少年の性感染症に対する意識, 四国医学雑誌, 57 (6), 2001.
- 8) 斉藤剛史：性教育中学教員の4割が「自信ない」, 内外教育, 51 (2), 2001.
- 9) 高橋久美子：中学生の親はどう性教育しているか一親と子の認知の比較一, 日本家政学雑誌50巻5号, 1999.
- 10) 富樫健二他：現代の性情報環境に応じた性教育の実施に向けて一小学生の性情報環境に関する調査一, 三重大学教育研究紀要, 48, 1997年.

- 11) 9) に同じ.
- 12) 末田法子：PTAとの連携で進める性教育3「共に学んだ命の尊さ」, 学校保健の広場12号, 1999.
- 13) 堀ノ口智子・小楠真由美, 竹元加奈子他：思春期の知的障害（精神薄弱）児を持つ家庭での性教育の現状調査, 福岡県立看護専門学校研究論文集, 22, 1999.
- 14) 9) に同じ.
- 15) 高橋久美子：家庭における性教育の現状と課題—大学生調査を通して—, 日本家政学会誌, 48 (4), 1997.
- 16) 志賀くに子：高校3年生の性の実態とその悩み—秋田県内6校のアンケート調査から—, 母性衛生, 39 (4), 1998.
- 17) 1) に同じ.
- 18) 2) に同じ.

## 著 者

丹羽さゆり (Sayuri NIWA)

中部大学生命健康科学研究所嘱託研究員。中京大学大学院社会学研究科博士前期課程修了。修士(社会学)。総合病院で2年、保健所保健師として8年勤務。1996年から中京大学社会学部の社会福祉実習助手を務め、1998年から看護学教育に携わる。日本赤十字愛知短期大学専攻科(地域看護学専攻)を経て、2005年1月より現職。専門分野は地域看護学。主な研究テーマは、①在日外国人の保健医療福祉に関する諸問題、②生涯教育の一環としての性教育のあり方。日本地域看護学会、日本公衆衛生学会、日本産業衛生学会などに所属。

水谷聖子 (Seiko MIZUTANI)

日本赤十字豊田看護大学看護学部助教授。愛知淑徳大学大学院現代社会研究科現代社会専攻博士前期課程修了。修士(学術)。専門分野：地域看護学(産業看護論、保健指導方法論)。行政における保健師を経験後、青年海外協力隊に保健師として参加。帰国後、企業にて産業保健に従事し、1993年より看護学教育に携わる。2004年より現職。主な研究テーマは、①ホームレス・在日外国人など地域で生活するマイノリティの人々と看護、②生涯学習としての性教育のあり方。③保健師活動の歴史研究。日本地域看護学会、日本公衆衛生学会、日本産業衛生学会などに所属。

大橋裕子 (Yuko OHASHI)

日本郵政公社名古屋郵政健康管理センター保健師。看護学学士。名古屋市立大学大学院人間文化研究科博士前期課程に在学中。専門分野は地域看護学。行政、青年海外協力隊など、保健師として7年間勤務した後、2002年より日本赤十字愛知短期大学専攻科(地域看護学)助手を経て、2004年より現職。主な研究テーマは、パナマ先住民の健康をめぐる現状と課題、生涯学習としての性教育のあり方。日本地域看護学会、日本国際保健医療学会などに所属。

水谷 勇 (Isamu MIZUTANI)

神戸学院大学人文学部教授。1985年京都大学大学院教育学研究科博士後期課程満了退学。教育学修士。日本学術振興会研究員、三重短期大学講師、助教授、教授を経て、2003年より現職。

専門分野：教育学（教育課程論、教育方法思想）。主な研究テーマは、①アメリカ教育学研究の批判的摂取（デューイ、アップルなど）②生涯学習推進体制整備 ③到達度評価教育運動 ④学校五日制下の教育課程のあり方など。最近は、①兵庫県での生涯教育推進体制整備と大学の役割の実践的研究 ②生涯学習としての性教育のあり方 ③大学評価のあり方(功罪)を研究。